

# 平成25年度 総合的な学習の時間にかかわる現状と課題

部長 長谷川 栄

## 1 総合的な学習の時間の動向

各郡市においては、学習指導要領改訂の趣旨をいかして、総合的な学習の時間の充実を図るために、地域や実践に学ぶことをテーマや課題として取り組んできた様子が伺える。

### (1) 地域の特色ある「ひと・もの・こと」を学び授業の充実を図る取組

- ・佐渡市では「佐渡学」、村上市では「郷育プログラム」を推進している。これらの推進のために、それぞれジオパークの研修やイヨボヤ会館を活用した研修に取り組んだ。他の郡市においても同様の取組が多く見られた。
- ・新発田市では授業公開に向け、子どもたちの思いを重視するため、事前に部でもち米を使った実習を行い、活用に対する知見を高める取組を行った。
- ・五泉市は「ふるさと五泉のステキを伝えよう」をテーマに活動を進めている。公開授業研修では、全員の総合部員が当事者意識を持って参観できるように、授業者はアウトラインのみを提案し、部員全員で指導案を立案して行った。

### (2) 「探究的な学習」「協同的な学習」をテーマに授業の充実を図る取組

- ・妙高市立斐太北小学校では、子どもに「学びのノート」を持たせ、一人学びを広げたり、追求を日常化したりしながら、それを授業に取り込むという、独自学習と相互学習を繰り返す中で、追求を支える取組が実践されていた。
- ・新潟市では、子どもが自ら探究する総合的な学習の時間をテーマに、思考の可視化をキーワードとして、方向を焦点づけて研究を進めた。
- ・燕市立吉田南小学校では、ICT機器を活用し、体験活動と交流活動から自分が学んだことや伝えたいことを文章化してまとめる学習を展開した。
- ・阿賀町立三郷小学校では、福島の被災地との交流・支援活動を振り返り、どんな思いで行動していくのか考え、追求活動の意欲を高める実践を行った。
- ・上越市や十日町市・中魚沼郡、魚沼市では、小中9年間を見通し、連携を深め、互いの授業力の向上を図る研修が行われた。

## 2 総合的な学習の時間の課題

- ・単元、活動の構想力や授業力を一層鍛えるための方策として、学校間の合同授業や共同のカリキュラム開発を進めることが考えられる。
- ・子どもたちの主体的な学びを見取り、学習活動を改善していくために、評価をどのように設定していくかを考えていく必要がある。
- ・小中9年間を見通し、連携を深めていこうとする動きが増えてきている。中学校区で学びをつなげていく実質的な取組の進展が期待される。